

(様式1)

令和6・7・8年度「京都府学力・学習状況調査～学びのパスポート～」
学校改善プラン(2年次)【中学校】

【学校名等】

学校名	南丹市立園部中学校							校長名	宅間 治郎																												
学 年	1 年	2 年	3 年	特別支援				生徒数	388 名																												
学級数	4	4	4	3																																	
事業担当教員名	森 哲也																																				
① 中学校区で目指す子ども像	人とのつながりを大切にし、主体的に生きる子どもを育成しよう ～ 保幼小中が一体となって取り組む非認知能力の育成を目指して ～																																				
② 目指す子ども像	1 自他の生命・人権を尊重する生徒 2 粘り強く考え合い主体的に課題を解決する生徒 3 心身ともに健康で、強い意志を持ち、予測不能な社会を力強く生き抜く生徒 4 自身の生き方に見通しをもち、成果や課題を振り返ることで自身を高めることができる生徒 5 地域とのつながりを大切にし、ふるさと南丹市を愛し、地域に貢献できる生徒																																				
③ 目指す子ども像に対する現状と課題	①現状について 昨年5月に実施された学びのパスポートから府平均と比較して、1年生は国語－1.7、数学－2.8で、2年生は国語－0.1、数学－3.1で、3年生は国語＋2.0、数学－1.0、英語－3.5であった。家庭学習時間は、1年生で30分未満9.0(府平均11.8)、0分0.7(府平均4.5)、2年生で30分未満13.3(府平均13.8)、0分1.8(府平均9.5)、3年生で30分未満8.3(府平均12.3)、0分0.8(府平均8.4)で学習を少なからずやっている生徒の割合は高い。しかし、2時間以上になると、1年生12.7(府平均20.9)、2年生14.2(府平均20.1)、3年生5.8(府平均24.6)であることから、学習はしているものの2時間以上学習している生徒は少ない状況が見られる。しかし、このデータでは、学びのパスポートを有効的に活用することができていないと思われる。 そこで、非認知能力の平均化を行い、非認知能力の向上について目を向けようとしているが、大きな変化が見ることができない。 <table><tr><th colspan="4">現3年生</th></tr><tr><th></th><th>目標に向けて取り組む姿勢</th><th>計画性</th><th>チャレンジ精神</th></tr><tr><td>R5</td><td>1.75</td><td>2.25</td><td>2.05</td></tr><tr><td>R6</td><td>1.78</td><td>2.40</td><td>2.06</td></tr></table> 上記の結果から、本校が行っている取組が非認知能力の涵養に関連しているのかがまだわからない。 <table><tr><th colspan="4">現3年生</th></tr><tr><th></th><th>目標に向けて取り組む姿勢</th><th>計画性</th><th>チャレンジ精神</th></tr><tr><td>R5</td><td>31.0%</td><td>26.9%</td><td>31.9%</td></tr></table> しかし、非認知能力が向上している割合でみると、上記の結果のようになっている。ここからは、本校が行っている取組が非認知能力の涵養につながっていると言える。このまま、行事や授業での非認知能力の涵養を継続していきたい。 また、学力ステップが上がった生徒の割合で見ると、1年生では国語73.4(府平均71.9)、数学66.9(府平均67.5)、2年生では国語64.4(府平均58.1)、数学48.3(府平均46.3)、3年生では国語70.2(府平均63.1)、数学43.9(府平均47.0)、英語71.8(府平均68.7)という結果であった。 1年生と3年生の数学以外では、府平均より伸びている生徒が多かった。これは、一つ大きな成果だと言える。また、3年生の国語では、府平均より7.1上回っている。 ②研修の状況について 夏休みに学びのパスポートの活用研修として、京都府教育委員会から指導主事を講師に招き、分析するための研修を行った。そこでは、学びのパスポートの概要について話していただくとともに、学年ごとにペアになり、各学級の分析を行うなど、学びのパスポート									現3年生					目標に向けて取り組む姿勢	計画性	チャレンジ精神	R5	1.75	2.25	2.05	R6	1.78	2.40	2.06	現3年生					目標に向けて取り組む姿勢	計画性	チャレンジ精神	R5	31.0%	26.9%	31.9%
現3年生																																					
	目標に向けて取り組む姿勢	計画性	チャレンジ精神																																		
R5	1.75	2.25	2.05																																		
R6	1.78	2.40	2.06																																		
現3年生																																					
	目標に向けて取り組む姿勢	計画性	チャレンジ精神																																		
R5	31.0%	26.9%	31.9%																																		

	トの結果からどのように分析をするのかを研修した。 それらの研修を活かし、分析結果を基に涵養したい3つの非認知能力を具体化して、学校行事等で重点化するとともに、振り返りシートを活用して非認知能力の涵養に努めた。 また、授業においても分析から「主体的・対話的で深い学び」の重要性を共通認識するとともに、授業内で非認知能力を涵養するためのギミックを設定して、取り組んでいる。 ③探究学習について 地域の企業・団体から、「答えのない問い」を設定してもらい、1年間をかけて考えて納得解や最適解を見いだすことで、課題解決の手順を学び、経験することを目的としている。 協力していただいている地域の企業・団体は、レストランや寺院、道の駅、観光協会などであり、例えば、レストランからは、「100年企業を目指すために」というように答えが明確にないようなお題であり、答えは1つではなく、子どもたちが協働して納得解や最適解を見つけていくしかないお題となっている。 今年度は、2年生で「勤労」、3年生で「SDGs」をテーマとして、今度は生徒が自ら課題を見つけ、その課題を解決するため様々な学習を行っていく。 これにより、論理的な思考力の育成、課題解決のための探究的な学習を通して基礎的・汎用的能力の育成に資するものとしていきたい。 ④ブロックについて 園部中学校ブロック全体として、小中学校ともに様々な取組の中でタブレットを活用している。 例えば、子どもたちの協働的な学びの中では、ロイロノートを使うことで意見交流、発表、シンキングツールを使って考えを深める等を効果的、効率的に行っている。また、A Iドリル「すらら」を活用し、授業の導入での活用や、不登校、別室登校の生徒が個別学習できるように活用している。 これらICTは、小学校においても、協働的な学びを深めるツールとして活用を進めるだけでなく、家庭学習においても「すらら」を活用し、問題配信等を行い個々の児童の学力課題に応じた指導を工夫している。 小中連携が進んでいくように、相互の授業を参観し合い、授業力の向上に努める。
④ 目指す子ども像に達するための仮説	(1) ブロックで統一の重点目標を設け、実践を通して児童・生徒の変容を見る。その際、学びのパスポートを活用し、分析する。 (2) 分析結果を基に、ブロック全体での授業改善の方向性を共有し、各校での授業改善の具体的な取組につなげる。 (3) 各校で取り組んでいる独自の研究を交流し合い、より効果的な取組となるように系統的な整理を行う。例えば、探究的な学習において、小学校で行う地域学習などの様々な取組の中に探究的な要素を取り入れ、それらを中学校で行う課題解決型学習を行う素地として、中学校での取組につなげるようにする。 (4) 個別最適な学びと協働的な学び、認知能力と非認知能力等、どちらかを育成するのではなく、バランス良く育成できるように意識的に計画する。 【園部中学校における具体的な取組】 ① 1年生で取り組んだ課題解決型学習を全学年で実施する。 例) 2年生：勤労体験 3年生：SDGs ② 課題解決型学習で経験した「課題解決の手順」を教科の学習あるいは、教科横断的な視点で活用していく。 例) パフォーマンス課題など ③ 授業の中で個別最適な学びと協働的な学びのベストミックスを探る。 ④ 非認知能力の客観的な効果検証結果を具体的な行事改革、精選につなげていく。 ⑤ 本校の学力向上サイクルの更なる具体化と汎用性の高いものとしていく。

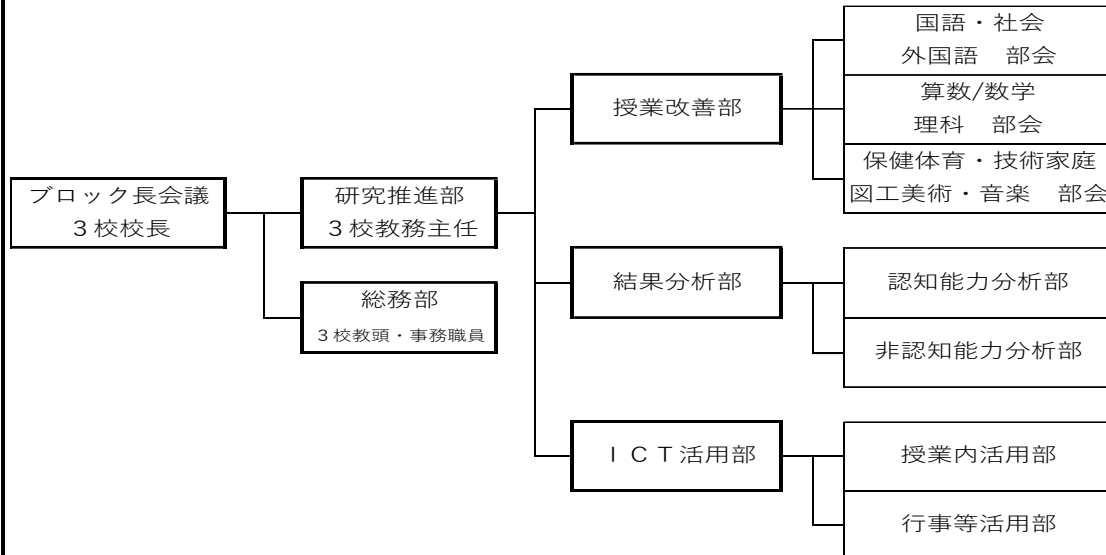
令和7年5月1日現在

【 1 研究主題】

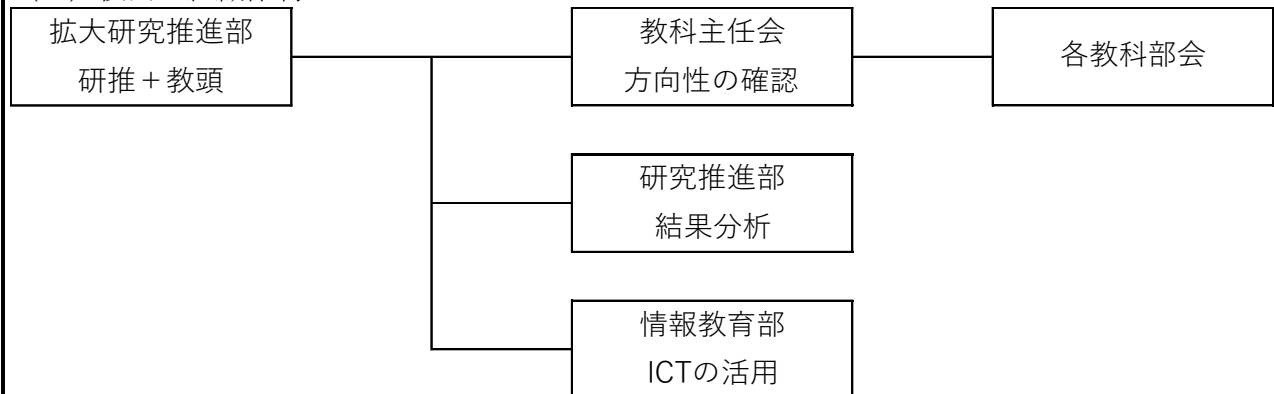
学びのパスポートの活用による認知能力と非認知能力の一体的な指導の在り方について

【 2 研究組織体制】

(1) 中学校ブロックの組織体制



(2) 校内の組織体制



【 3 具体的な取組内容】

- 5月 学びのパスポート実施
- 6月 公開授業週間
- 7月 園部中学校ブロック研究会
- 8月 第1回分析・活用研修会
 - 学びのパスポートの分析（個別）全教職員対象
 - 学びのパスポートの分析（学校・学年）研究推進部対象
- 10月 第2回分析・活用研修会
 - PBL（SDGs）本発表会（3年生）
- 11月 公開授業週間
 - 園部中学校ブロック研究会（公開授業・講演会・分析結果）
 - PBL（地域からの問い）中間発表会（1年生）
- 12月 PBL 勤労体験発表会（2年生）

1 月きょうと明日へのチャレンジコンテストへの参加（2 年生）
 2 月公開授業週間
 PBL（地域からの問い）本発表会（1 年生）

【4 仮説及び成果を検証するための質問項目】

学年	質問番号	質問項目	概念	備考
全	46	まわりが反対しても、自分ができると思ったらやってみる。	目標に向けて取り組む姿勢	
全	51	はじめに目標やゴールを決めてから計画を立てるほうだ。	計画性	
全	52	失敗してもあきらめずに何度も挑戦するほうだ。	チャレンジ精神	

* 5、6 の分析項目は削除しています。

【7 分析結果を踏まえた指導改善、個に応じた具体的な手立て】

個に応じた具体的な指導・支援方法

- 個別の支援を進めるために、学びのパスポートの分析において個人に焦点を当てた分析を行った。分析に当たっては、散布図や個人データを基にし、学級の中で誰に焦点を当てるかは担任が判断した。分析した生徒については結果をまとめ、全体で共有した。担任だけが把握するのではなく、教科担任や部活動顧問も閲覧できるようにし、学校全体で生徒の様子を共有した。
- 2 学期の公開授業週間からは、分析した生徒の座席や分析結果、教師の見立てなどを指導案に記載している。また、その生徒の認知能力と非認知能力の向上のためにどのような方策を取るのかを明記するようにした。さらに、その生徒への支援を通して、学級全体にどのような効果が期待できるかについても記載した。

集団としての具体的な指導・支援方法

- 総合的な学習の時間において、全学年で探究的な学習を中心とした課題解決型学習を実施している。1 年生では「園中ラボ」、2 年生では「はたらくラボ」、3 年生では「未来探究」と名付け、学年の発達段階に応じた探究活動を行っている。その結果、全校の前で堂々と発表する姿が見られるようになったほか、「きょうと明日へのチャレンジコンテスト」において入賞するなど、生徒の主体的な活動が見られるようになっている。
- 授業においては、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、グループワークや対話型の学習を取り入れ、生徒一人一人の考えや意見を大切に授業づくりを進めている。
- 地域貢献活動として、全校生徒にアナウンスし、地域のお祭りやイベントの手伝い、高齢者に向けた演奏会、障がい者施設への訪問などを行っている。こうした活動を通して、生徒が地域社会と関わりながら学ぶ機会を設けることで、主体性や協働性などの非認知能力の育成につながっていると考えられる。

【8 仮説の修正】

- これまで、総合的な学習の時間における探究的な学習や「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に取り組んできた。これらの取組を通して、生徒の主体性や協働性などの非認知能力の醸成が期待されている。しかし、学びのパスポートの分析結果を見ると、認知能力と非認知能力との間には強い関連が見られないことが明らかになった。そのため、探究的な学習や対話的な学習を継続しながら、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る取組も併せて行い、認知能力と非認知能力を一体的に育成する指導の在り方について検討していく必要がある。

【9 具体的な取組内容の修正】

- 基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る取組を進める
学びのパスポートの分析結果から、認知能力と非認知能力との間には強い相関が見られないことが明らかになったが、探究的な学習や対話的な学習を継続しながら、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る取組も併せて進めていく必要がある。
家庭学習の充実を図るため、AIドリルなどを活用し、繰り返し学習の機会を確保する。
また、家庭学習の進め方について継続的に指導を行い、計画的に学習に取り組む態度などの非認知能力の育成にもつなげていく。

【10 生徒の変容（普段の様子から）】

- 個別最適な学びに向けて、指導案に学びのパスポートの分析結果や生徒への支援方法を記載するようになったことで、教師の視点に変化が見られ、個に応じた指導が進んでいる。
- 【取り上げた生徒の変容】
- 教師が助言することで、友人と相談しながら学習に取り組む姿が見られるようになった。間違えた場合でも、友人の考えを聞きながら自分の考えを修正し、理解を深める様子が見られる。
 - 朝学習テストには意欲的に取り組んでいる。分からない問題に対して段階的に考えさせることで理解につながる様子が見られる。一方で、自分で課題を解決していく力にはまだ課題が見られる。

【11 3年次の研究構想】

- ①全学年で実施している総合的な学習の時間における課題解決型学習をさらに充実させ、探究的な学びの質の向上を図る。
- ②総合的な学習の時間と教科の学習との往還を意識した授業改善を進め、生徒が学びを関連付けながら理解を深められるようにする。
- ③授業の中で、個別最適な学びと協働的な学びの効果的な組み合わせについて研究を進める。
- ④非認知能力の効果検証の結果を踏まえ、学校行事の在り方について見直しを行い、生徒の主体性や協働性の育成につなげる。
- ⑤基礎的・基本的な知識・技能の定着を図るため、ドリル学習などを取り入れ、基礎的・基本的な知識・技能の向上を目指す。